

## 都田菊郎さんを偲んで

都田菊郎名誉会員は、本年（2019年）2月19日に逝去されました。都田さんは95歳で亡くなるまで60余年に渡って、数値天気予報一筋に研究人生を送られました。

都田さんは1952年に東京大学理学部の大学院に入学し、数値予報の研究を開始しました。1953年には佐々木嘉和さんと協力して台風の進路予報を試み、有望な結果を得て気象集誌に発表し、この業績は後に日本気象学会賞（1956年「台風の進路予報の研究」）を受賞しました。続いて、大学院の研究グループによる降水の数値予報の共同研究で指導的な役割を果たされました。この研究は1955年の気象集誌に発表されましたが、米国気象学会に同年発表された Smagorinsky の論文と共に先駆的な論文でした。

その後、1960年代の初めに渡米され、地球流体力学研究所で大気大循環モデルを使って数値天気予報を行い、素晴らしい成果をあげられました。大気大循環モデルには、その頃の数値予報モデルと違って、海陸面からの蒸発、積雲対流、大気放射、凝結熱などの非断熱効果が入っています。都田さんは大気大循環モデルを使うことで、天気予報の期間が2、3日から数日に延びるという大発見をされました。ヨーロッパ中期予報センター長だった Bengtsson 氏によると、都田さんの研究はとても先駆的で、同センター設立の大きな誘因となったようです。

1980年代の頃からは、大気-海洋結合モデルを使って ENSO の予測可能性の研究を行い、大変有望な結果を出しています。これら長期予報の可能性に挑戦し続けた功績が認められ、1983年には「延長予報モデルの開発に尽くした貢献」により日本気象学会藤原賞を受賞されています。

そして、1991年、米国気象学会はこれらの傑出した研究に対して、米国気象学会最高の賞であるロスビーメダルを都田さんに授与しました。表彰された業績は次の通りで、彼の貢献を実に良く表現しています。

“For Outstanding Contributions  
toward Extending the Time Range of  
Numerical Weather Prediction to



Dr. Kikuro Miyakoda  
...he made the world a better place...

Weeks, Months, and Seasons. (数値天気予報における予報時間の週、月、季節への延伸に対する多大なる貢献)”

彼の研究をみてもわかりますが、都田さんは、人並みはずれた“凝り性”でした。旧制高校で演劇に凝り、何年も留年したというのは、本人から聞いた話です。彼の話はとてもユーモアに富み、間を置く話しぶりは、人を引き込む力を持っていました。彼のセミナーでのスピーカー紹介は、何時も機知に富み、人を笑わせました。彼のいなくなった今、とても懐かしく思い出します。

私が都田さんに最初にお会いしたのは1953年で、東京大学大学院に気象学専攻で入学した時です。大学院一年生の私は、気象研究を始めるにはどうすれば良いのか分からず、暗中模索していました。その私に色々助言して下さいましたのが都田さんでした。それ以来60年間大変お世話になり、本当に感謝しています。

心からご冥福を祈ります。

(プリンストン大学 真鍋淑郎)